

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 13 日現在

機関番号：34517

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25381053

研究課題名(和文) イギリス新教育におけるポリティクスと「劇化法・評価法」に関する教育思想史的研究

研究課題名(英文) Historical study of educational thoughts on politics and 'Dramatic Method and its evaluation' in New Education movemnet in Britain

研究代表者

山崎 洋子 (Yamasaki, Yoko)

武庫川女子大学・言語文化研究所・教授

研究者番号：40311823

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、イギリス新教育運動における基礎学校の女性校長・ハリエッタ＝ジョンソン考案の「劇化法」(Dramatic Methods of Teaching)とその「評価法」を俎上に載せ、新教育運動の思考枠組みと思考様式の特徴に教育実践家、教育学者、教育行政家の三者の相互緊張関係があること、新教育のテーゼ「教育の自由」及び「自己表現」にポリティクスとパラドクスがあること、「自己表現」への意味付与と「自己評価」の思考枠組みに、「自由」対「統制」の二項対立概念を越える回路が存在することを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：In this study, focusing a scheme on the 'Dramatic Method of Teaching' proposed by Harriet Finlay-Johnson, I identified three educational thoughts in politics and evaluation of her method in New Education movement in Britain. First, there was a balanced tension between three stances by practitioners, scholars of pedagogy and educational administrators, as its features and characters of framework and thinking style of New Education movement in Britain; second, politics and paradox embedding in the connotation of 'freedom in/for education' and 'self-expression'; third, the New Educational concept to prepare a channel of citizenship in education beyond conflicts between two notions in education, 'freedom' and 'control' in teaching, which is a concept of 'self-evaluation', and has sparked a controversy in the New Education era.

研究分野：教育史

キーワード：イギリス 新教育運動 劇化法 ポリティクス H. フィンレイン＝ジョンソン 自己評価 E.P. ヒューズ

## 1. 研究開始当初の背景

本研究の開始当初の背景は、次の5点にまとめることができる。

- (1) イギリスの学校現場は、20世紀の約70年間、教師集団の強力な主導性と責任意識によって、教師の専門性を遂行する「子ども理解」と「カリキュラム編成」を主導し、進歩主義教育を展開した。
- (2) 現代イギリスの進歩主義教育は、個性重視、子ども中心、トピック学習、オープン教育といった概念とともに、教師の自律性を保障しようとする日本の教育関係者に伝播され、3つのサイクルの教師教育を提起したジェームズ報告書(1971)への着目とともに重視されてきた。
- (3) この源流は、19世紀末に「自由」を掲げて生じた新教育運動にあり、それを先駆したのは、イギリス固有の組織「教育の新理想(New Ideals in Education)」(1914-39)と新教育連盟(New Education Fellowship, 1921-66)であった。両組織は、当時の知識人、教育学者、校長、学校経営者、教師だけでなく、視学官や政府関係者などで構成されており、彼らの主張は、政府によって制度化された1918年教育法に影響を与えていくことになる。
- (4) とはいえ、イギリス新教育運動の掲げた「自由」は、複合的な局面を有しており、2つの思想傾向、すなわち社会改革思想と神秘思想を内在していた。また、この運動を唱導した勅任視学官 H. ホームズや教育学者の P. ナンは、自由とともに、個性(individuality)、自己表現(self-expression)、自治(self-government)、自己実現(self-realisation)というイギリス理想主義の教育概念を掲げる)ことになる。
- (5) 実は、これらの具現化に取り組んだのは、公立の基礎学校教師であった。彼らは「学習記録表」、「弾力的な時間割」、「柔軟仕様の学校教室空間」などを考案するが、新しい教育方法として着目されたのが、地方の基礎学校(elementary school)の女性校長ジョンソン(H. F. Johnson)の考案した「劇化法(Dramatic Method)」という学習法であった。この方法論は、イギリスの新教育家に大きな影響を与えた。しかし、1920年代末になると新教育運動はメディアを介した組織的拡大を強化し、やがて教育の自由に反する試験制度と優勢思想を取り込むことになるという状況があったことは、注視しておかねばならない。

## 2. 研究の目的

本研究の初発の問いは、イギリス新教育運動が「子ども理解」と「カリキュラム編成」を軸に教師の自律性・専門性を促したにもかかわらず、他方で、ポリテクスに絡め取られる脆弱さがあったのではないか、その要因は新教育運動期の教育メディアに孕まれたポリテクスにあり、それは新教育思想に内包された両義性と理想の力学の帰結ではないかという点にあった。

以上の問い・仮説に誘われながら、本研究では、3年間の研究計画において、以下の3つの主要目的を掲げた。

- (1) 基礎学校の女性校長の考案した新しい学習法の一つ、「劇化法」とその「評価法」(パフォーマンス)を俎上に載せ、教育思想史的観点から、新教育運動の思考枠組みと思考様式の解明、新教育のテーマ「教育の自由」と理想(自己表現、自治、自己実現など)に内在するポリテクスとパラドクスの同定、「自己表現」への意味付与と「自己評価」の思考枠組み、「自由」対「統制」の二項対立概念を越える回路の構築可能性の存在の有無を明らかにする。
- (2) ジョンソンの「劇化法」を新教育の代表的な方法として最初にイギリス全土に紹介した勅任視学官ホームズと、「劇化法」を「遊び」「自由」に位置づけて称賛したロンドン大学の教育学者ナン(Percy Nunn)が「劇化法」の理解において表した新教育的イメージを考察する。そして、彼らとその称揚において、ジョンソンの自己評価法のいかなる点に注目しているかを解明する。
- (3) 子どもの「自由」と「学び」との調停を図ろうとした諸論において、ジョンソンの「劇化法」がどのように位置づけられたかを解明し、「評価論」における二項対立軸の模索状況を取り上げ、自己表現と自己評価の均衡状態を志向した思想枠組みを析出する。そして、二項対立的な教育観を乗り越える視点を提示することに寄与した個別学習法の教育評価と新教育思想のイギリス的変容の内実を、1930年代末までの議論に留意しながら、社会化、協同性、自己評価、学びの概念の深化の内実とその思想史的意味を、当時の新教育運動家の模索状況、論争から解明・考察する。

## 3. 研究の方法

本研究では、上記の3つの目的に迫るため、それぞれ以下のような方法と手順を踏んで進めた。なお、本研究において重要になるのは、いかなる第一次史料に着目するか、それらの所蔵場所はどこか、発掘した第一次史料の緒論考のうちのいかなる概念に着目する

か、国際比較史の観点からそれらの諸概念をどのように位置づけるかであった。

そのため、研究方法の確定においては、この4点に留意した。以下、本研究が採用した研究方法を列挙する。

- (1) 研究代表者のこれまでの研究成果及び解明点である教師の行為コードのうちの倫理的人間形成論を精査しつつ、ジョンソンの著作、『劇化教授法』(The Dramatic Method of Teaching)を第一次史料として位置づけ、劇化法的方法的新奇さを抽出した。さらに、公立基礎学校で劇や遊びが位置づけられた歴史的背景、当時の教育メディアがジョンソンの劇化法をどのように賞讃しているかを考察するため、ケンブリッジ大学とロンドン大学図書館アーカイヴス、さらに大英図書館において、未収集第一次史料を入手して進めた。同時に、海外研究協力者オールドリッチ氏(Prof. Richard Aldrich, ロンドン大学名誉教授、2014. 09 死亡)の著作(『教育史に学ぶ - イギリス教育改革からの提言』(Lessons from History of Education) 知泉書館, 2009)と海外研究協力者ロウ氏(Prof. Roy Lowe, 元ロンドン大学教授)の著作(『進歩主義教育の終焉 - イングランドの教師はいかに授業づくりの自由を失ったか』知泉書館)の再読を並行して進め、さらに研究協力者のカニンガム氏(Dr Peter Cunningham, Homerton College)の進歩主義カリキュラム論の再読(申請者監訳『イギリスの初等学校カリキュラム改革 - 進歩主義的理想の普及 - (Curriculum Change in the Primary School since 1945)』(つな出版, 2006)、『ポリティクスと初等学校教師』(Politics and the Primary Teacher) (2012. 03)の読解に取り組んだ。

そして、進歩主義教育史全体のなかでのポリティクス概念の意味内容を研究代表者・研究協力者間で意見交換した。その際には、劇の評価に代替する言説としての芸術論(創造性・個性を強調)と、その対抗軸として一元化された知能試験導入の事実による「二極分化構造」の回収に陥ることを避けつつ、データ整理を行った。

- (2) E. ホームズ著、『何であるか、何であるべきか』(What is What Might Be) (1911) と、彼の中央政府への報告書 (1913)、『教育の新理想会議報告書』(1914-36) 新教育連盟季刊誌『新世紀』(New Era) (1921-1929)、パーシ・ナン著『教育』(Education: Its Data and first principles) (1920, 1926)、『教育の新理想季刊誌』(New Ideals in Education) (1926-) タイムズ教育版 (Times Educational Supplement) をとりあげ、新教育運動家が「劇化法」の称揚において、ジョンソンの自己評価法のいかなる点に注目しているかにアプローチした。そして、諸概念の整

理に向けて、次元、局面の観点から再構造化を試みた。

- (3) 子どもの自由と学びとの調停を図ろうとした諸論においてジョンソンの「劇化法」がどのように位置づけられたかを解明するため「自由という規範」(The Discipline of Freedom) (in *New Ideals in Education, Conference Report*, 1923)、「自由な性格への応答」(The Response of Character to Freedom) (Ibid., 1924)を再読・考察した。
- (4) 本研究は、イギリスだけでなく同時期の新教育運動との比較が不可欠であるため、研究協力者のカニンガム氏(Dr Peter Cunningham)、ロウ氏(Prof. Loy Lowe)、オールドリッチ氏(Prof. Richard Aldrich)、フォスケット氏(Mr Gary Foskett, エヴェリンロウ初等学校第三代校長)(Eveline Lowe Primary School)ら、イギリスの教育史研究者や教育実践家から助言・指導を得た上で、国際教育史研究及び比較史研究の文脈で意見交換・批判を得た。また、ヨーロッパの新教育運動において「評価」がいかに捉えられていたかを参照するため、イエナプランとの比較も試みた。

#### 4. 研究成果

以上に記した研究目的、さらには研究方法によって、以下の点が解明された。

- (1) ジョンソン、ホームズ、ナンの見解、政府刊行の報告書の考察に基づくならば、教育実践家、教育学者、教育行政家のすべてにおいて、新教育のテーゼ「教育の自由」という目標理念を構成する諸概念の捉え方は、自己表現、自治、自己実現といった「新理想」であるということが確認できた。このことより、イギリス新教育運動の思考枠組みと思考様式を規定しているのは、教育実践家、教育学者、教育行政家の三つの関係者・機関の均衡を維持するための相互緊張関係であり、この点がイギリス新教育運動の特徴であることが解明された。
- (2) 新教育のテーゼ「教育の自由」と「自己表現」に内在するポリティクスとパラドクスの有無や内実を同定した結果、「自己表現」に多様なファクターを擁した「自己評価」という意味が付与されているということが解明された。この点は、イエナプランなどとは異なっているということもわかった。
- (3) 「自己表現」に付与された「自己評価」の概念において、「自由」対「統制」の二項対立概念を越える回路の構築可能性の存在の有無を確認した結果、その具現化に向けた理念目標の緊張関係の維持という方法原理が存在する、ということが解明され

た。それは、方法原理であると同時に、ある種の回路と称することができるが、その回路を作るための新しい理想概念が‘citizenship’という言葉でこの時期に教育界に登場した、ということ突き止めた。

なお、本研究では、上述のイギリス新教育運動における評価観が、今日でいうところの「パフォーマンス評価」に類しており、自己表現、自治、自己実現という諸概念がその端緒を切り開いたのではないか、という次なる研究仮説も得られた。

それは、当時はパフォーマンス評価という表現はなされていなかったが、この仮説が、日本の大正・昭和初期の新教育運動の多義的特徴との相違点を抽出し比較することによって、より明らかになるのではないか、というヒントが得られたからである。新教育運動の全体像の解明に際しては、こうした比較史的視点が不可欠であることも追認できた。

<引用文献(研究開始当初の背景)>

- (1) 山崎洋子:「現代イギリスの教員養成における動向と特質 - 学校基盤/パートナーシップ/校長のリーダーシップ/教職の専門性 - 」, 『鳴門教育大学学校教育実践センター紀要』第 19 号, 2004.
- (2) 山崎洋子・ゲーリー・フォセット:「進歩主義教育における「子ども中心の教育 (Child-Centred Schooling)」の理論と実践 - イヴラインロウ小学校の提起するもの - 」, 鳴門教育大学『鳴門教育大学研究紀要(教育科学編)』第 18 巻, 2003.
- (3) 山崎洋子:「イギリス公教育におけるイヴラインロウ小学校の先駆性—全人的発達の可能性を求めた歴史と現在—」, 鳴門教育大学『鳴門教育大学学校教育実践センター紀要』第 18 号, 2003.
- (4) 稲垣忠彦他『子どものための学校 - イギリスの小学校から』東京大学出版会, 1984, 1994.
- (5) 佐藤学:「教師教育の危機と改革の原理的検討 - グランドデザインの前提 - 」『日本教師教育学会年報』第 15 号, 2006.
- (6) 山崎洋子:「『教育の新理想』と新教育連盟に関する考察」, 教育史学会『日本の教育史学』第 41 集, 1998.
- (7) 山崎洋子:『ニール「新教育」思想の研究 - 社会批判にもとづく自由学校の地平』大空社, 1996.
- (8) 山崎洋子:「イギリス新教育思想における「自由」の宗教的性格」, 鳴門教育大学『鳴門教育大学研究紀要(教育科学編)』第 19 巻, 2004.
- (9) 山崎洋子:「E・ホームズの「教育の新理想」としての「自己実現」概念」, 教育哲学会『教育哲学研究』第 81 号, 2000.
- (10) 山崎洋子:「イギリス新教育運動における「試験」・「知能テスト」をめぐる論争と

ジレンマ」, 『武庫川女子大学紀要人文社会科学編』, 第 59 巻, 2012.

- (11) 山崎洋子:「イギリス新教育運動の組織的拡大と思想的混迷」, 『武庫川女子大学紀要・人文社会科学編』, 第 59 巻, 2012.

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4 件)

- (1) 山崎洋子「イギリス新教育の歴史的・現代的意義と課題—教育における「自由」を考える—」『教育新世界』査読有, no. 64, 2016, pp. 15-22.
- (2) Yoko Yamasaki, Developing citizenship: lessons from British progressives, *Dramatic Method of Teaching by H. Finlay-Johnson (1912)*, 武庫川女子大学大学院文学研究科教育学専攻『教育学研究論集』第 10 号, 査読無, 2015, pp. 17-23. (English)

<http://www.mukogawa-u.ac.jp/~edugrad/1003yamasaki.pdf>

- (3) 山崎洋子「イギリス教員養成の歴史から何を学ぶか—教職の複雑さと進歩主義教育の時代—」, 教育思想史学会『近代教育フォーラム』査読有, 第 23 号, 2014, pp. 145-161.

[http://ci.nii.ac.jp/els/110010002394.pdf?id=ART0010561884&type=pdf&lang=en&host=cinii&order\\_no=&ppv\\_type=0&lang\\_sw=&no=1463723161&cp=](http://ci.nii.ac.jp/els/110010002394.pdf?id=ART0010561884&type=pdf&lang=en&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1463723161&cp=)

- (4) Yoko Yamasaki, Continuing the conversation: British and Japanese progressivism, *History of Education Society, UK, History of Education*, UK (Routledge Taylor & Francis) 査読有, vol. 42, no. 3, 2013, pp. 335-349. (English)

DOI: 10.1080/0046760X.2013.795613

[学会発表](計 5 件)

- (1) 山崎洋子「教育史研究と教師の教養形成 - イギリス教育史家の省察に学ぶ - 」(依頼)教育史学会(第 59 回大会), 2015 年 9 月 26 日, 宮城教育大学(宮城県仙台市)
- (2) Yoko Yamasaki, Yasui Tetsu(1870-1945) and transcultural influences in educational reforms for women (Panel title: Educational tourism and its impacts: Intercultural interaction between Japan and the West at the turn of the 19th to the 20th century), 国際教育史学会(International Standing Conference for the History of Education, ISCHE) 37 回大会, 2015 年 6 月 25 日, イスタンブール大学(Istanbul University)イスタンブール(ト

ルコ)

- (3) 山崎洋子「イギリス新教育の歴史的・現代的意義と課題—教育における「自由」を考える—」(依頼)世界新教育学会日本支部 (World Education Fellowship Japan section) 2015 年度国際教育フォーラム, 2015 年 6 月 7 日, 玉川大学(東京都町田市)
- (4) Yoko yamasaki, Building a peaceful society with citizenship: lessons from British progressives 1910-1930s, 国際教育史学会 36 回大会( International Standing Conference for the History of Education, ISCHE ), 2014 年 7 月 24 日, ロンドン大学 (University of London, Institute of Education) ロンドン, 連合王国 (UK)( English )
- (5) 山崎洋子「イギリス教員養成の思想史からの教訓は何か?—専門職の複雑さと進歩主義教育の時代—」(依頼)2013 年 9 月, 教育思想史学会第 23 回大会シンポジウム, 慶應義塾大学三田キャンパス (東京都)

[図書](計 1 件)

- (1)ロイ・ロウ著,山崎洋子・添田晴雄監訳『進歩主義教育の終焉』知泉書館,査読無, 2013, 全 333 頁, 分担訳 ( pp. vii-ix, xi-xii, 3-69, 281-286 )及び監訳者あとがき( pp. 287-295 )

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

山崎 洋子 (YAMASAKI YOKO)  
武庫川女子大学・言語文化研究所・教授

研究者番号 : 40311823

### (2)研究協力者

リチャード・オルドリッチ (Richard Aldrich)

ロンドン大学名誉教授 ( Emeritus Professor, University of London ), ロンドン, 連合王国 ( UK )

ロイ・ロウ ( Roy Lowe )

ウェールズ大学名誉教授 ( Emeritus Professor University of Wales ), 連合王国 ( UK )

ピーター・カニンガム ( Dr Peter Cunningham ) ケンブリッジ大学 ( University of Cambridge ), 連合王国 ( UK )

ゲーリー・フォスケット ( Mr Gary Foskett ) 元ロンドン公立学校・エヴェリンロウ初等学校校長 ( Former Headteacher of Eveline Lowe Primary School ), 連合王国 ( UK )